

令和2年度・令和3年度
埼玉県教育委員会 学力向上研究校指定事業

学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業の展開」
～伝え合い 教え合い 高め合う学習を通して～



鴻巣市立鴻巣南中学校



学校概要説明

昭和59年開校 創立38周年 生徒数 254名

県費教職員数 21名

ベテラン・中堅・若手教員が
バランス良く配置されている。

総クラス数 9クラス

1年3クラス、2年2クラス、
3年3クラス、特別支援学級1クラス



本校生徒の分析と研究テーマ設定の理由

《強み》

「**集団**」としての学びの姿勢や習慣が成立している。

《弱み》

本来持ち合わせている「**個**」の実力を十分に発揮できていない。

学力の二極化・基礎基本の内容の定着に課題が見られる。



研究の仮説

- 南中スタンダードの更新+
- 教職員が「学力の定義」「学力の3要素」+
や「授業方法」の共通理解を深める
- 生徒が「見通し」をもって学び、互いの良さを評価し合う+
- 生徒間・生徒と教師間の良好な人間関係の構築
→→→ 生徒の学力向上に繋がる



研究テーマ

学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業の展開」

～伝え合い 教え合い 高め合う学習を通して～

研究組織

学力の定義

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

「学校教育法第30条②

小学校（中学校）の目標」



学力の3要素

(1)基礎的な知識及び技能を習得

(2)基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力

(3)主体的に学習に取り組む態度

研究推進部 + 研究3部会

研究組織 研究推進部・①②③部会

①インプット部会 ※基礎・基本	②アウトプット部会 ※活用力	③学習意欲部会 ※メタ認知(自己調整能力) →自分の考え・見通しをもつ
<ul style="list-style-type: none"> ・コバトン問題集、復習シートの活用 ・班学習(学びのカルテット) ・各教科での小テスト ・基礎基本定着のための取組 ・定期試験前補習学習 ・漢字検定&英語検定 ・暗唱(スピーチ) ・リスニング ・ライティング ・読解力の向上 ・体力の向上 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導 ・鑑賞文や報告文 ・実験や観察、考察集約 ・掲示物や作品作成 ・表現活動(発表等) ・教育活動中でICT活用 等	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学力学習調査の分析 ・コバトンのびのびシートの作成と授業活用 ・ICT活用 ・見通し&評価 【電子黒板設置、全生徒に学習PC端末配布】 ・本物から学ぶ 等
等		
<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律・約束・環境の構築 ・異学年&異校種交流 		
<ul style="list-style-type: none"> ・博物館や図書館と連携(ゲストティーチャー・専門機関連携) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の見通し&振り返り(成長した自分)&適切な評価方法(指導と評価の一体化研修) 		
★調査統計も含む(アンケートの集約・分析等)		

- ◇県の先進研究校の取組から学ぶ
- ◇各種学力学習状況調査結果の分析と結果の有効活用(把握と課題解決・PDCA)
- ◇新学習指導要領の完全実施(学力の定義と3要素、「見通し」と「振り返り」)
- ◇指導と評価の一体化
- ◇特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間の授業の充実(知徳体の育成)
- ◇GIGAスクール構想(教職員の働き方改革も含めたICTの効果的な活用)

【研究の最終的な結論】

南中スタンダード(特別活動)を中心に良好な人間関係・教育環境を築くことが、生徒の学力を向上させると共に、教職員の指導力・資質向上につながる。《南中スタンダードの更新・自己肯定感や集団貢献能力を育む教育活動の実践》

学力向上全体計画

新学習指導要領の完全実施 学力の定義・学力の3要素

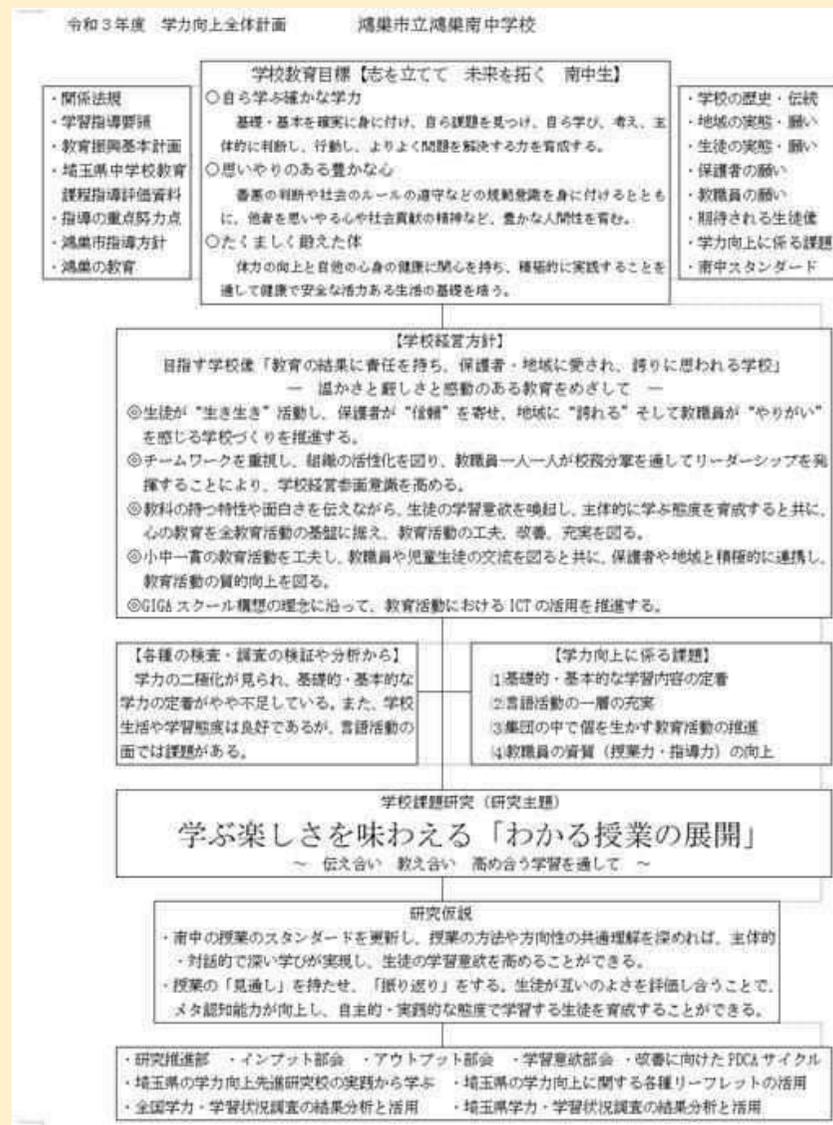
- ①何を理解しているか、何ができるか
(知識・理解)
- ②理解していること・できることをどう使うか
(思考力・判断力・表現力等)
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい
人生を送るか (学びに向かう力・人間性等)

主体的・対話的で深い学び

「見通し」と「振り返り」

「自分の考え」をもつ

GIGA構想 生徒用学習PC端末の活用



各教科・領域等の現状と研究主題

	現状	教科研究主題	具体的な解決プラン	目標となる指標
国語	・入前で自分の考えや意見を発表することに前向きな生徒が多い。 ・基礎基本の定着に課題がある。	「目的や意図に応じて、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成」	・授業の中で「振り返り」を行い、学びの深まりを実感させる。 ・小テストによる基礎基本の定着。	・全国学力学習状況調査、県学力学習状況調査で県平均を上回る。 ・目的や意図に応じて文章の構成を工夫できるようにする。
社会	・学力と意欲に個人差が大きい。 ・基礎的、基本的な内容の定着や資料を読み取り、考えをまとめることに課題がある。	「基礎基本の定着を基礎として、主体的に取り組む学習活動の展開を工夫し、思考力・判断力・表現力を高める指導」	・グループ活動や朗読劇、ディベートなど生徒が主体的に活動できる授業形態の工夫。ミニテストや宿題を通して基礎基本の定着	・ミニテストでの正答率、宿題の提出率100%になるようにする。
数学	・学力と意欲に個人差が大きい。 ・開放と証明の学習に課題がある。	「目的や意図に応じて、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成」	・グループ活動や朗読劇、ディベートなど生徒が主体的に活動できる授業形態の工夫。ミニテストや宿題を通して基礎基本の定着	・ミニテストでの正答率、宿題の提出率100%になるようにする。
理科	・観察・実験への関心は高く、落ち着いて安全に取り組むことができる。 ・実験の予想を立てたり、結果から考察したりして自らの考えを言語化するなど表現力に課題がある。 ・基礎的・基本的な内容の定着が十分でなく、学力と学習意欲の個人差が大きい。	「目的や意図に応じて、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成」	・グループ活動や朗読劇、ディベートなど生徒が主体的に活動できる授業形態の工夫。ミニテストや宿題を通して基礎基本の定着	・ミニテストでの正答率、宿題の提出率100%になるようにする。
英語	・積極的に家庭学習に取り組む生徒が増えてきている。 ・長い文章を正確に深く読み取ることや自分について表現することに課題がある。	「目的や意図に応じて、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成」	・グループ活動や朗読劇、ディベートなど生徒が主体的に活動できる授業形態の工夫。ミニテストや宿題を通して基礎基本の定着	・ミニテストでの正答率、宿題の提出率100%になるようにする。
音楽	・音楽を聴いて良さや美しさを味わうことができる。 ・表現の意欲に生徒の二極化が見られ、音階活動の面に課題がある。	「目的や意図に応じて、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成」	・グループ活動や朗読劇、ディベートなど生徒が主体的に活動できる授業形態の工夫。ミニテストや宿題を通して基礎基本の定着	・ミニテストでの正答率、宿題の提出率100%になるようにする。

英語

- ・積極的に家庭学習に取り組む生徒が増えてきている。
- ・長い文章を正確に深く読み取ることや自分について表現することに課題がある。
- ・指定された内容で語順を正しく書くことや自分について表現することに課題がある。

	現状	教科研究主題	具
道徳	・話し合いで、積極的に考えを表現する生徒に限られている。 ・価値に気づかず表面的な理解にとどまる生徒がみられる。	「話し合いを充実させて考えを表現させることで、心の交流を目指す道徳授業を推進する」	・話し合いの場を ・南中話し合いの場 ・価値観の異なる生徒の話し合いの場 ・生徒の話し合いの場 ・話し合いの場
総合	・チャレンジタイムの読書活動は集中してできている。 ・自らの課題に沿った本の選択に課題がある。 ・グローバルタイムの活動は各学年の計画に沿って実施している。	「自らの課題を見つけ、課題解決しようとする生徒を育てる」	・生徒の話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場
特活	・学校生活における自分の長所が発見しづらい。 ・学級の帰属意識が薄い。 ・主体的に活動する力が十分ではない。	「互いのよさを認め合ういきいき特別活動」	・話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場
特別支援	・得意なこと、自信がないことを避けようとする傾向がある。 ・集中力の持続に課題がある。	「基礎基本の定着を目指し、主体的に取り組む学習指導の工夫」	・話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場 ・話し合いの場

- ・集団における活動を通して、個人に返って行動できるような指導。
- ・学級活動や生徒会活動行事との関連性を意識させ、生徒の発意、発想を生かす場の設定。
- ・取組内容を精選する。

・年度当初の校内研修で、前年度の個々のコバトンのびのびシートの伝達と引き継ぎを行い、生徒の強みと弱みを共有し、各教科・領域等の研究主題を設定

研究の流れ

- ①全国学調・県学調の結果分析と結果活用法の研修
- ②コバトンのびのびシートの作成と授業活用法の研修
- ③評価研修 ④ICT活用研修 ⑤授業参観

研究史	令和2年度	令和3年度
校長	初貝 博幸	青木 忠博
4月	臨時休業日	研究計画について(全体会) 研究課題・テーマ・組織 概要確認
5月	臨時休業日	新評価についての研修 5/14(金) 研修①: 都留文科大学 新井仁先生
6月	研究組織決定・教科会 校内研修(各教科の学力向上プラン作成)	課題研究テーマに基づいた授業作り(教科会)
7月	校内研修(各部会の活動計画)	A訪問準備開始「指導案検討」 研究授業者(公開授業者)決定 教育課程南部伝達研修・小中連携合同研修会
8月	校内研修(指導案検討・各部会の進捗状況と今後の計画)	A訪問準備「指導案綴り作成」(教科会) →2週間前までに指導者に届ける。 研修②: 都留文科大学 新井仁先生 →A訪問に向けて「授業力向上」研修
9月	B訪問9/15(火) B訪問の振り返り市 校内研修(各部会の活動の全体情報共有)	A訪問9/8(水) A訪問の振り返り市
10月		A訪問のまとめ・中間発表冊子作成 研修③: 都留文科大学 新井仁先生 →「中間発表資料」作成について 市 →「12月授業研究発表会」について 県
11月	学力向上委嘱研究研修会① 義務教育指導課指導主事による授業参観、県学調の結果分析方法、県の学力向上の取組紹介 学力向上委嘱研究研修会② 義務教育指導課指導主事による学力向上先進研究校の実践事例の紹介	委嘱研究中間発表(紙面発表→発送) 県
12月	県学調の結果分析(今後の対応策)	授業研究発表会(算数・数学)⇒1年・2年から1クラスずつ 県
1月	各部会の活動のまとめ	校内研修(教科会)
2月	PDCAサイクルによる取組のまとめ(課題と課題解決に向けた具体的方策)	今年度の成果と課題の検討 県 委嘱研究報告書の作成・提出
3月	校内研修・教科会 年間指導計画、各教科・領域等の学力向上プランの策定	今年度の反省と評価を振り返って 来年度の活動方針について・まとめ

生徒個々の伸びの把握
教員の指導力向上

県リーフレット「こんな取組が効果的でした！」調査

埼玉県学力・学習状況調査 活用リーフレット



私の学校・学年では

中学校 令和2年度版

こんな取組が効果的でした！



授業では、こんな工夫をして、主体的・対話的で深い学びを実現しました！

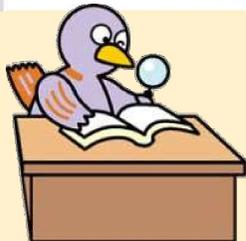
○生徒の疑問から本時の課題を設定しました。
○「なぜだろうか」と、疑問形式の課題を設定しました。
○課題解決の前に予想、見通しをもたせました。
○生徒が活動や作業をする際は制限時間を示しました。
○基礎と応用の2種類の課題を準備し、生徒が自分で選べるようにしました。

○活動の目的や内容に応じて2～4人の班による座席編成にしました。
○全教科でグループ学習や発表の仕方など統一しました。
○生徒同士で説明し、伝え合う活動を単元に1回以上行いました。
○単元や学習内容に応じて、ジグソー法を取り入れました。
○机間指導の時にたくさん声をかけるようにしました。

○単元のはじめの時間に単元の流れを説明するようにしました。
○単元テスト予告版を事前に配布し、満点者が多数出るようにしました。
○授業道具の忘れ物(教科書・プリント等)は、何らかの形で渡し、学習に支障がないようにしました。
○提出物にしっかり取り組ませるために、声をかけ、期間の再設定等しながら、提出するまで見届けました。
○デジタル教科書やタブレットなどICTを活用しました。

○考えを言葉で書かせるときは、理由を明らかにさせました。
○毎時間生徒が自分の言葉で振り返りを書くようにしました。
○生徒が考えたまとめを発表し合い、検討する機会を設けました。
○学んだことやそこから考えたことをノートに記述させました。
○よいノートを紹介し、共有するようにしました。
○大切なこと、覚えるべきことは何度も復習させました。

埼玉県教育委員会



①主体的・対話的で深い学び

②自らの授業を振り返る

③先行実践から学ぶ



授業以外にも、先生方で相談して、こんな工夫をしました！

○学校全体で、自習の時間を作らないようにしました。
○週に1コマ、教科担当者の空き時間をそろえ、教科部会で情報交換をしました。
○公開授業を学年で行い、担当教科以外の授業を見る機会を多くしました。
○小学校と中学校でそれぞれ授業を見合うとともに、取組を紹介し合いました。
○担当教科外の授業を参観するときは、教員の声かけに対する生徒の表情の視点から見ないようにしました。

○学習計画を立てさせ、チェックと励ましを行うとともに、よい計画表を紹介しました。
○家庭学習プリントとして、単元調復習シートとコバトン問題集を活用しました。
○家庭学習ノートを作り、1日1ページの学習と日記を習慣づけました。
○単元調の結果分析を基に、学年、学級、生徒個人の強みや課題を明確にしました。



日常的なことや学級経営などでも、こんなことを心がけました！

○日頃から笑顔で心がけました。
○「指示」よりも「お願い」と「感謝」を心がけました。
○授業でのよいエピソードをその学級の担任に伝えたり、自分の学級のことを教科担当の先生から聞いたりしました。
○季節や行事、学習状況に合わせたタイムリーな掲示をしました。
○無言ではない清掃で、生徒に声をかけながら手を動かしました。
○無言清掃をしました。

○行事ごとに振り返りを書かせ、生徒の活躍を紹介しました。
○帰りの会でクラスの課題や良かった点について生徒が発表する時間を設けました。
○学級通信に生徒が書いたものを多く掲載しました。
○保護者や地域から寄せられた意見を学校だよりの裏面に掲載したり、行事後の学級通信の返信欄を設けたりして、家庭・地域の声を反映しました。

よい取組を、みんなで共有しましょう！

※本資料は、実践事例を紹介したものです。各学校での取組の参考にしてください。

こんな取組が効果的でした！【中学校 令和2年度版】※文末は「～している。」に変更してある。

授業での「主体的・対話的で深い学び」を目指した工夫に関する調査	←教科
【回答方法】実施している……1 どちらともいえない……2 実施していない……3 プルダウン入力	←氏名
質問項目【授業編】	
1 生徒の疑問から本時の課題を設定している。	
2 「なぜだろうか」と、疑問形式の課題を設定している。	
3 課題解決の前に予想、見通しをもたせている。	
4 生徒が活動や作業をする際は制限時間を示している。	
5 基礎と応用の2種類の課題を準備し、生徒が自分で選べるようにしている。	
6 活動の目的や内容に応じて2～4人の班による座席編成にしている。	
7 全教科でグループ学習や発表の仕方などを統一している。	
8 生徒同士で説明し、伝え合う活動を単元に1回以上行っている。	
9 単元や学習内容に応じて、ジグソー法を取り入れている。	
10 机間指導の時にたくさん声をかけるようにしている。	
11 単元のはじめの時間に単元の流れを説明するようにしている。	
12 単元テスト予告版を事前に配布し、満点者が多数出るようにしている。	
13 授業道具の忘れ物(教科書・プリント等)は、何らかの形で渡し、学習に支障がないようにしている。	
14 提出物にしっかり取り組ませるために、声をかけ、期間の再設定等しながら、提出するまで見届けられている。	
15 デジタル教科書やタブレットなどICTを活用している。	
16 考えを言葉で書かせるときは、理由を明らかにさせている。	
17 毎時間生徒が自分の言葉で振り返りを書くようにしている。	
18 生徒が考えたまとめを発表し合い、検討する機会を設けている。	
19 学んだことやそこから考えたことをノートに記述させている。	
20 よいノートを紹介し、共有するようにしている。	
21 大切なこと、覚えるべきことは何度も復習させている。	
質問項目【授業以外編】	
22 学校全体で、自習の時間を作らないようにしている。	
23 週に1コマ、教科担当者の空き時間をそろえ、教科部会で情報交換している。	
24 公開授業を学年で行い、担当教科以外の授業を見る機会を多くしている。	
25 小学校と中学校でそれぞれ授業を見合うとともに、取組を紹介している。	
26 担当教科以外の授業を参観するときは、教員の声かけに対する生徒の表情の視点から見ないようにしている。	
27 学習計画を立てさせ、チェックと励ましを行うとともに、よい計画表を紹介している。	
28 家庭学習プリントとして、単元調復習シートとコバトン問題集を活用している。	
29 家庭学習ノートを作り、1日1ページの学習と日記を習慣づけている。	
30 単元調の結果分析を基に、学年、学級、生徒個人の強みや課題を明確にしている。	
質問項目【日常的なことや学級経営編】	
31 日頃から笑顔で心がけている。	

こんな取組が効果的アンケートの結果分析

良い点

- ・ 担当教科以外の授業を参観するときには、教員の声かけに対する生徒の変容に着目する。
- ・ 家庭学習ノートを作り、1日1ページの学習と日記を習慣づけている。
- ・ 県学調の結果分析を基に、学年、学級、生徒個々の強みや課題を明確にしている。

改善策

- ・ 公開授業を学年で行い、担当教科以外の授業を見る機会を多くしている。
- ・ 学習計画を立てさせ、チェックと励ましを行うとともに、よい計画表を紹介している。
- ・ 家庭学習プリントとして、県学調復習シートとコバトン問題集を活用している。

学びのR リーフレットの活用

授業改善

教科会

若手教員の育成

教職員の
研修環境の整備



教職員の
学び合い

ICT機器の活用法研究 **GIGAスクール構想と教職員の「働き方改革」**

学習PC端末を含めたICT機器を生徒が使用することはもちろん、**教員自身が指導の幅を広げる**ための環境を整えている。



ICT活用に関する書籍を集めて
いつでも見られるようにした

インプット部会

全国学力学習状況調査の問題分析

- ①教科の枠を越えて**問題分析**し、全ての**教員が経験**を蓄積する。
- ②**質問紙**を分析すると**調査対象教科以外にも深い関わり**があることや教科指導はもちろん、**教育活動の様々な場面**で、**生徒に「自分の考え」**をもたせることの**重要性**を知る。



インプット部会

基礎基本の定着に向けた各教科の取組

小学校6年間との「学びの接続」

伝え合う「学びのカルテット」

T・T授業・きめ細やかな指導

学校区の小学校と異校種連携授業

2種類のプリントで「学びの定着」

南中における「学びの伝統と伝承」
全力体育「一生懸命がカッコいい」

国語

数学

英語

体育



品	種類	一部	time	英	音	品	種類	一部	time	英	音
70	秒	second	セカンド [sekənd]	70	秒	second	「時間」の1000分の1				
71	分	minute	ミニット [mɪnɪt]	71	分	minute	「時間」の1/60				
72	時(00分)	hour	アワー [aʊə]	72	時(00分)	hour	「時間」の1/24				
73	色	color	カラー [kɔlə]	73	色	color	「色」の種類				
74	白	white	ホワイト [hɪwaɪt]	74	白	white	「色」の種類				
75	黒	black	ブラック [blæk]	75	黒	black	「色」の種類				
76	赤	red	レッド [red]	76	赤	red	「色」の種類				
77	青	blue	ブルー [blu:]	77	青	blue	「色」の種類				
78	黄	yellow	イエロー [jeləʊ]	78	黄	yellow	「色」の種類				
79	緑	green	グリーン [grɪn]	79	緑	green	「色」の種類				
80	茶色	brown	ブラウン [braʊn]	80	茶色	brown	「色」の種類				
81	動物	animal	アニマル [ænɪməl]	81	動物	animal	「動物」の種類				
82	犬	dog	ドッグ [dɒg]	82	犬	dog	「動物」の種類				
83	猫	cat	キャット [kæt]	83	猫	cat	「動物」の種類				
84	食べ物	food	フード [fu:d]	84	食べ物	food	「食べ物」の種類				
85	米、ライス	rice	ライス [raɪs]	85	米、ライス	rice	「食べ物」の種類				
86	肉	meat	ミート [mi:t]	86	肉	meat	「食べ物」の種類				
87	野菜	vegetable	ヴェジタブル [vedʒɪtəbəl]	87	野菜	vegetable	「食べ物」の種類				
88	果物	fruit	フルーツ [fru:t]	88	果物	fruit	「食べ物」の種類				
89	水	water	ウォーター [wɔ:tə]	89	水	water	「飲み物」の種類				
90	牛乳	milk	ミルク [mɪlk]	90	牛乳	milk	「飲み物」の種類				

インプット部会

基礎基本の定着に向けた各教科の取組

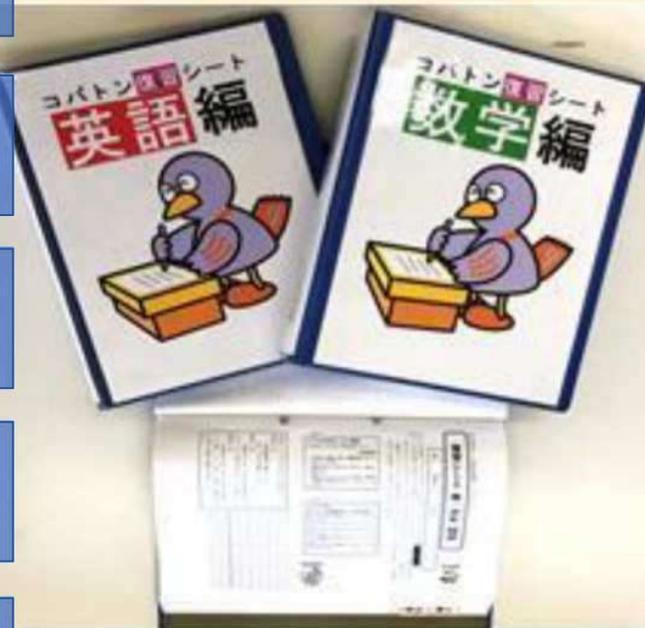
定期テスト前の「勉強会」

コバトン問題集・復習シートの活用

長期休業日中の「補習授業」

伝統の引き継ぎ「南中ソーラン」

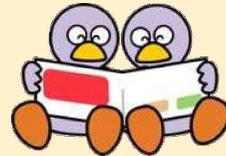
漢字検定・英語検定・PC検定 等



アウトプット部会

自分の考えをアウトプットする活動

授業の見通し・振り返り



異学年交流学習

- ①先輩から学び、南中の伝統を後輩へ継承する。
- ②生徒が自分自身の成長を実感する体験の蓄積

Date /	授業時間 (10-3)	科目 内容 (授業時)	出席者	出席 (A/B/C)	コメント (感想・気づき・学び)	担当 ファイン
7/2	①	①		A
7/3	②	②		A
7/7	③	③		A
7/10	④	④		A
7/13	⑤	⑤		A
7/15	⑥	⑥		A
7/16	⑦	⑦	⑦	A
7/17	⑧	⑧		A



学習意欲部会

R3 埼玉県学力学習状況調査の結果分析 コバトンのびのびシートを活用

数学 中3

国語 中2



学力の伸びの状況

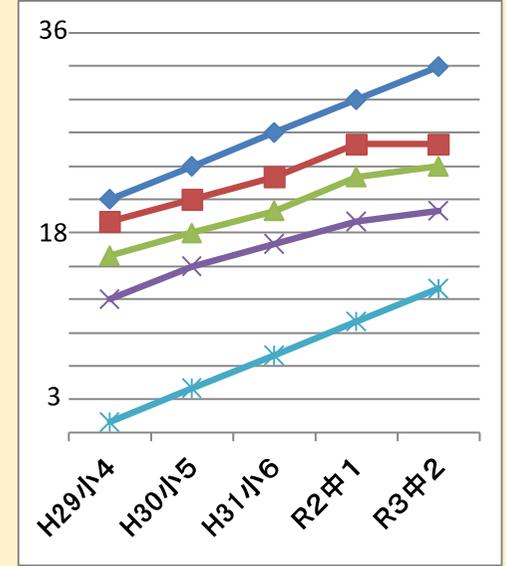
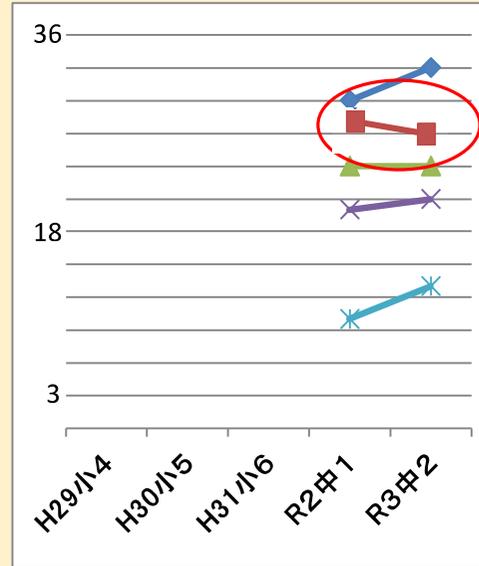
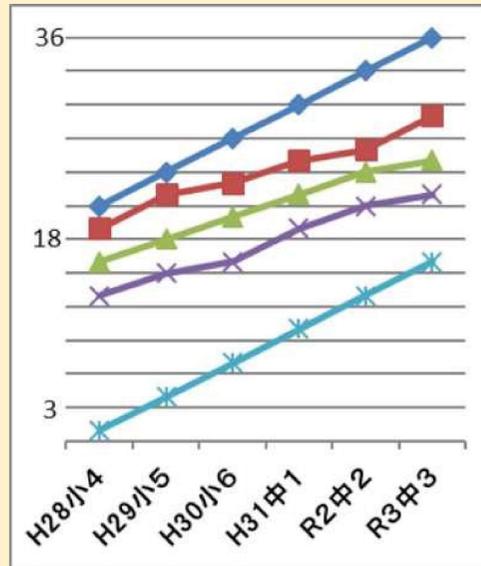
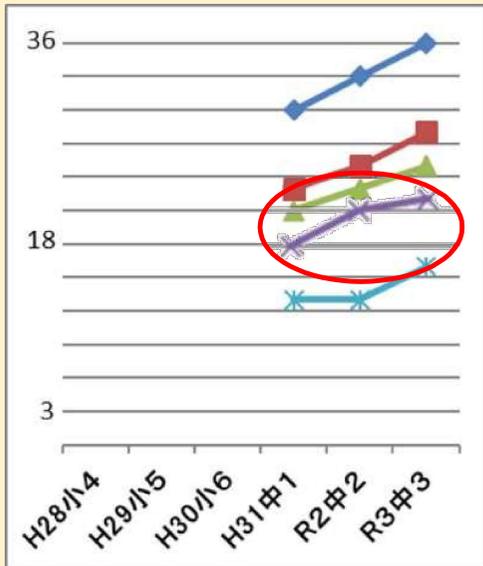
学力の伸びの状況

貴実施主体

埼玉県

貴実施主体

埼玉県



学習意欲部会



コバトンのびのびシートの活用
生徒個々へのきめ細かな支援

学習意欲部会

学びのPDCAサイクルの活用

毎日家庭学習

テストの点数が確実にアップ！
日々の家庭学習の仕方も変わる！

テストまでの計画を立てる



- テストの日にもちと内容を確認する
- テストの日までの学習の予定を立てる
- ムリがない予定かを確認する

自分でプレテストをする

- テストに出る問題、出ると予想される問題を、自力で解く
- 注意深く丸つけをして、正解と間違いに区別する



テストの結果を分析する



- 間違えた問題はどれか、どうして間違えたのかを考える
- 間違えた問題をどうやって解決していくのか、解決策を考える

苦手を効果的に練習する

- 間違えた問題を中心に、集中的に練習問題に取り組む
- 本番を想定して、プレテストにもう一度挑戦する



テスト計画

テストに向けた学習計画表 2年2学期 中間テスト

1. 名前 _____

2. 目標点数 _____

3. 学習内容の計画

日	行事・自由学習	10月12日(水)		10月13日(木)		英語	理科	社会	算数	合計
		1時間目	2時間目	1時間目	2時間目					
10/10										
10/11										
10/12										
10/13										
10/14										
10/15										
10/16										
10/17										
10/18										
10/19										
10/20										
10/21										
10/22										
10/23										
10/24										
10/25										
10/26										
10/27										
10/28										
10/29										
10/30										
10/31										
11/1										
11/2										
11/3										
11/4										
11/5										
11/6										
11/7										
11/8										
11/9										
11/10										
11/11										
11/12										
11/13										
11/14										
11/15										
11/16										
11/17										
11/18										
11/19										
11/20										
11/21										
11/22										
11/23										
11/24										
11/25										
11/26										
11/27										
11/28										
11/29										
11/30										

テスト結果を記入する欄



学習意欲部会

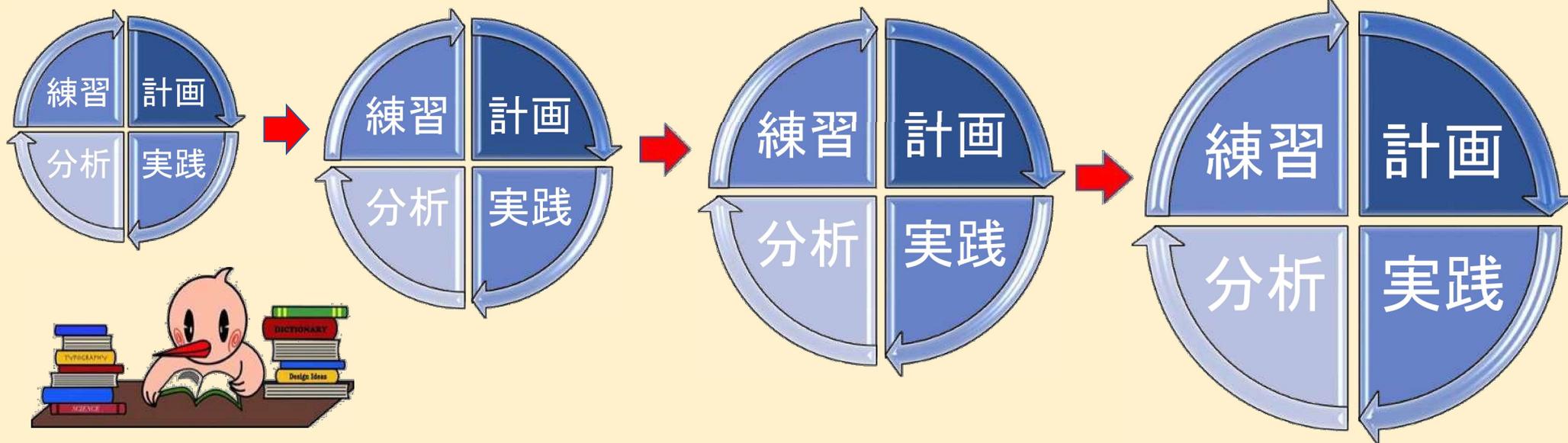
学びのPDCAサイクルを意識した学習習慣の定着

毎日の
サイクル

単元の
サイクル

テスト期間の
サイクル

1年間の
サイクル



「見通し」と「振り返り」で成長した自分を実感

研究の成果

- ・ 特別活動を柱とした自己肯定感、所属感や集団貢献能力を育むクラスづくりを継続したことで、生徒の非認知能力が高まり、学力の向上に大きく寄与した。
- ・ 自分の考えや意見を持ち、集団の中で発表する機会が増えたことで、自分に自信が付き、個の力を高めることができた実感できる生徒が増加した。
- ・ 国や県、市の学力向上に効果的な先行実践例に教員が触れることで、教員の学び合いの機会が増加し、自身の授業改革を行うことができた。
- ・ 教員が「学力の定義」「学力の3要素」の理解を深め、コバトンのびのびシートの活用法を学んだことで、教材研究や生徒個々への支援の幅が広がった。



今後の研究の課題

- ・ 学習の「見通し」と「振り返り」をさらに深め、自己の学びや伸びを実感し、生徒が自分の考えをもつ授業の実践を継続して行っていく。
- ・ 学力については課題が見られる階層はもちろん、全ての階層の生徒に着目し、学び合いや教え合いのさらなる指導・支援に取り組む。
- ・ ICT機器を効果的に活用した授業改善と働き方改革を推進し、生徒の学習活動を充実させるための教員の指導力向上に取り組む。重ねて、指導と評価の一体化の研鑽を深める。
- ・ 生徒個々の「個としての力」がさらに高まるよう、集団の中で個を生かす特別活動の一層の充実を図る。





ありがとうございました。

鴻巣市立鴻巣南中学校 教職員一同